

| 履修年次 | 科・コース | 教科名 | 科目名 | 単位数 | 履修形態 |
|------|-------|-------|-------|-----|------|
| 中学1年 | | 倫理・宗教 | 倫理・宗教 | 1 | 必修 |

| | |
|--------|----------------------------|
| 教科書 | 聖書（旧約聖書続編つき・新共同訳聖書、日本聖書協会） |
| その他の教材 | 新聞・書物・雑誌の記事 「しらべにのせて」 |

| | |
|-----------------------|---|
| 目標 | <p>①イエス・キリストの愛に学び、神を愛し隣人を自分のように愛する生き方を実践する</p> <p>②神・他者・自分・自然と対話する心を育む</p> <p>③聖母生としてのアイデンティティを身に着け、自己受容し他人と交わる</p> <p>④愛と奉仕を実践し平和の実現に向かって働く</p> |
| 学習のねらい | <p>①聖書を通してイエス・キリストに触れ、神・自分・隣人を愛する生活の土台となる価値観を培う</p> <p>②立腰によって、今・ここに存在する自分と対話し、神と隣人と自然と共に生きる仕方を体得する</p> <p>③学院の歴史と精神を学び、聖母生としてのアイデンティティを育む</p> <p>④クラスと社会と世界の現実の中で、奉仕していく姿勢を培う</p> |
| 定期考査 | 実施せず |
| 評価の観点 および 評価の方法 | <p>評価の観点</p> <p>美しいもの・真実なもの・善いものを志向する態度</p> <p>科目への関心・意欲・態度</p> <p>評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖書、ノート、「しらべにのせて」をもって授業に参加する ・立腰黙想とその振り返りがしっかりできている ・提出物（ノート、レポートなど）の内容と、提出期日が適正である ・授業・宗教行事への参加の態度が真摯である |
| 履修上の注意 | <p>立腰黙想と振り返りを通して、自分との親しさを深めていくこと</p> <p>宗教や聖書の講義を、自分のあり方や生活・現実世界と結び付けて考え、生活に生かすように努めること</p> <p>自分を生かすための時間として、積極的姿勢で臨む</p> |

桜の聖母学院中学校・高等学校 H28(2016/17)年間指導計画

| 期 | 月 | 学習項目・学習内容 | 資料(テストと評価) |
|-------------|------------------|---|--------------------------------|
| 1 学 期 | 4 月 | オリエンテーション「桜の聖母学院はどんな学校でしょう」 宗教の授業の目的 立腰・黙想 | 校内聖母像めぐり 立腰プリント |
| | 5 月 | 聖母月 学院の保護者 聖マリア 桜の聖母学院のルーツ (修道院訪問準備) — 聖マルグリット・ブールジョワ— (聖マルグリットの望み) | ルカによる福音 錬成会 訪問しおり |
| | 6 月 | (学院が大切にしている教え —神・隣人・自分—) 愛されている自分に気づく— 望まれて存在している私 わたしは神様の傑作 (自分を育てて奉仕する—自分の能力—) | マタイによる福音 2 2 申命記 6 イザヤ書 |
| | 7 月 | 隣人愛の実行 | レビ記 1 9 |
| 夏季休業 | | 私の実行 | |
| 2 学 期 | 8 ・ 9 月 | イエス・キリストを知る 新約聖書から 主の祈りの解説 桜華祭に向けて ホスピタリティー | マタイによる福音書 5・6・7章から |
| | 10 月 | ロザリオで祈る— 隣人と世界の必要に目を向ける | マタイ 25 章 |
| | 11 月 | 死者の月 身近な人の死と命 感謝の祭儀 ミサについて 待降節 — クリスマスを準備する 見えない神様が見える人となって来られる | 慰霊ミサ キャロルコンクール |
| | 12 月 | クリスマス — — 神様からの私へのメッセージ | クリスマスの集い |
| 冬季休業 | | 聖書を読む — 創世記 1 章を読みポスターを描く | |
| 3 学 期 | 1 月 | 人間の尊厳 (価値) 人間と世界の創造の目的と離反 社会と世界の現実を見る、罪・悪・いじめ | 創世記 1 章～3 章 社会問題 (新聞記事) |
| | 2 月 | 私たちの家 (宇宙) — 環境問題を考える 平和に貢献している人を知る | セヴァン・スズキ マララ・ユスフザイ |
| | 3 月 | 修了ミサに参加する ミサ — 十字架と復活・愛と奉仕に生きる道 | |

